

ドリフト世界一決定戦

IFMAR R/C DRIFT World Cup 2018

大会レポート



世界各国から多くのエントリーが谷田部アリーナに集結。厳密なレギュレーション、公正な審査基準のもとで、世界一の「RCドリフター」を決定した。

ドリフトはその自由度の高さから、競技としての審査基準確立が難しいことが問題となっていたが、R.C.D.C.では車輛規定や、公認審査員による厳格な審査といったルールの明確化を図ったほか、誰もが視覚的に確認可能な高性能なカメラシステムを採用したYDS(ヨコモドリフト スコアリングシステム)を導入して、カッコいい走りだけでなく、選手のドライビングテク

クニックを明確に比べることができるようにしている。そんな厳密な基準をもとに、2018年4月には「R/Cドリフトワールドカップ」を開催。世界各国から多くの参加者が谷田部アリーナに集結し、自慢のマシンをかけた熱い戦いを展開した。ここではそんな世界一がどのように決定したのかをルールや大会の流れも合わせて紹介する。

ルール

使えるアイテムはレギュレーションで決まっている

参加するすべての選手がイコールコンディションで戦えるよう、シャーシやボディ、モーターやバッテリーといったパーツにはルールが決まっている。その決められたルールの中で、コース状況などに合わせて短時間にマシンをセットアップし、審査基準で指定されたラインや角度を正確にコントロールしてトレースすることが重要なファクターとなる。大会では市販されているマシンを使用し、レギュレーションに沿ったオプションパーツの取付けや、パワーソースの選択を選手が独自に行うことが可能となる。



大会で使用できるシャーシは、市販の各社1/10スケールのドリフトカーやツーリングカーに限られ、重量やサイズなども細かく決められている。ボディは実車メーカーのライセンスを取得したR.C.D.C.公認ボディに限られるが、各選手はそれぞれのスタイルに合わせてボディメイクを施して、大会に挑戦している。

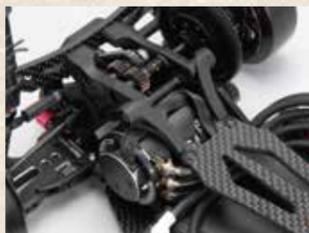


タイヤ

タイヤは支給されるマーキング済みのコントロールタイヤのみ使用可能。ちなみに今回の大会ではRC ART社製のタイヤを使用する。

パワーソース

モーターは540サイズで6.5T以上の物が使用可能となっている。バッテリーは2セルのリフェバッテリーまたはリポバッテリーを使う。充電時にはリポバッグの使用が義務付けられている。



予選

単走で順番に審査を行い得点を競う

3日間で行われる大会は、金曜日が公式練習日で、土曜日には単走での予選を行い、上位8名が日曜日に行われる決勝トーナメントへと駒を進める。

大会最終日の日曜日は、すでに決勝進出が確定した8選手を除いた選手によって単走予選を行い、上位8名を選出。最終的に各クラス16名の選手に決勝トーナメントへの道が開かれることになる。

事前に説明された審査基準を満たしているかを、審査員だけでなくYDSを使って厳密にチェックし、各選手の走りに100点満点で点数を付けて、決勝トーナメント進出者を決定。予選や決勝の様子は、会場だけでなく、ネット配信によって世界中で見ることができた。



審査ライン

事前に審査基準となるラインとドリフトアングルが伝えられ、それを正確にトレースできるかが選手には求められる。

単走での審査



予選はすべて1台ずつ走行を行う。走行は3回だけと、高い集中力が求められる。安定感を重視したミスのない走りか、迫力のある豪快な走りをするかなど、選手の度胸も試される。

ピットエリアでは選手間の交流も盛ん!



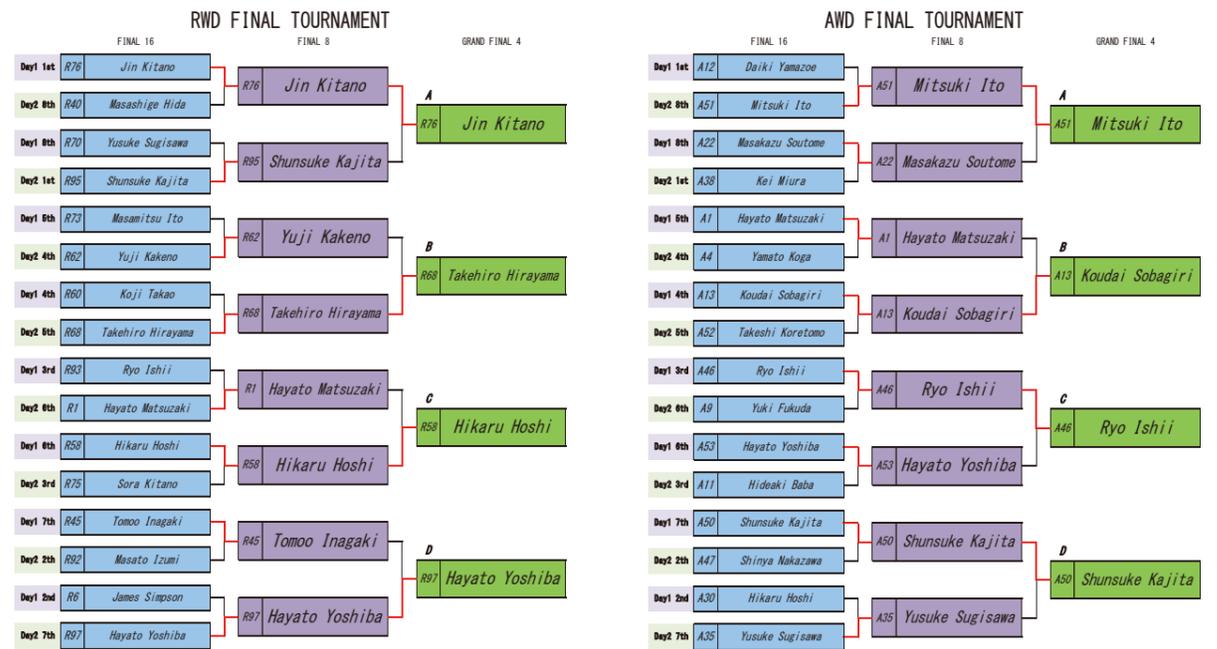
マシン整備のために設けられたピットエリアでは、選手同士での情報交換が行われるなど、コース上とは違った盛り上がりを見せた。



練習走行時にはそれぞれの走りについて、予選や決勝中には各選手の走りや得点などを、コースサイドでチェックし、それぞれの走りについて盛り上がる。

決勝

予選上位16名によるトーナメントでベスト4を決定



決勝トーナメントは、2日間の予選での順位で組み合わせを決定する。ベスト16から追走を行い、トーナメントを勝ち上がった4選手が、最終決戦の舞台となるグランドファイナル4に進める。

追走



ドリフトの醍醐味の一つが追走。決勝では両クラスとも1対1で競い合う追走トーナメントとなる。リーダーは単走の走り、チェイサーはリーダーとの距離をいかに詰められるかなど、接近しつつも正確な走りが求められ、距離が近ければギャラリーからの歓声も高まる。

AWDクラス、RWDクラスともに、2日間の予選で高得点を獲得した上位16名の選手が挑むのは、1対1で競い合う追走での勝ち抜き決勝トーナメント。リーダー(先行)とチェイサー(後追い)の2回走行を1対戦として、走行ごとに先行車輛のリーダーと後追いのチェイサーの走りのどちらが優れているかが審査の対象になる。

2台が駆け引きを繰り広げながら、いかに審査ラインを忠実にトレースできるかがポイントとなる。同得点となった場合はワンモアタイム(再戦)が適用される。

グランドファイナル4

決勝を勝ち上がった4選手による総当たり戦で勝者が決まる!

決勝トーナメントを勝ち抜いた4選手によって、チャンピオンを獲得するために追走での総当たり戦で競うのが、「グランドファイナル4」だ。総当たり戦のため、ワンミスでの敗退はなくなるが、運だけでは勝利をつかむことはできず、勝ち数が同じ場合はワンモアタイム(回数無制限の再戦)となるため、本当の意味での実力と強い精神力を持つ最強の選手のみがチャンピオンの栄冠を手にすることができる。

